

見どころ案内

ハナモモ “菊桃” (バラ科)

花卉が細長くキクに似ていることから名づけられました。濃い紅色の八重咲きで、モモとは思えない花を付けています。

2019年4月13日

通巻第410号

展示会のご案内

- ◇展示資料館 1F (4/6~5/6)
おし花美術作品展
- ◇展示温室 (3/9~4/17)
ゼラニウム展
- ◇屋外展示場 (4/13~4/18)
サクラソウ展

ファイヤーヒース (ツツジ科)

別名エリカ・ケリントイデス。ログガーデンのジャノメエリカと同じ仲間です。本種は南アフリカ原産の植物で、荒地に生育し、山火事後に花を咲かせることから、ファイヤーヒースの名がついています。

サルコカウロン・ムルチフィドウム (フウロソウ科)

冬型コーデックス(塊根植物)として近年人気が出ている種です。骨のような太い幹から繊細な葉を展開しています。月界という和名がついていますが、由来ははっきりしません。

ジングウツツジ (ツツジ科)

伊勢神宮の神域で発見されたことから神宮ツツジ。ミツバツツジの近縁種ですが、オンツツジやアマギツツジと同じく、花は葉が十分に展開してから咲きます。

カエンカズラ

(ノウゼンカズラ科)

ブラジル原産。橙色でラッパ型の花をつけています。沖縄では民家の生垣などによく用いられる丈夫なつる植物です。

ミツガシワ (ミツガシワ科)

北半球の寒冷地や高山の湿地帯に見られる多年草です。ミズバショウと同じく、氷河期の遺存種(レリック)とされています。カシワの葉が3枚集まっているように見えることから、ミツガシワ(三柏)。

ハナノキ (カエデ科)

ハナノキは日本固有の落葉高木で、東海地方(長野・岐阜・愛知)にのみ分布する珍しい樹木です。ハナカエデとも呼ばれ、展葉に先立って咲く紅色の花は花飾りを連想させます。今年は果実がたくさんついています。近くでは、フサアカシアも咲いています。

サクラ “御衣黄・鬱金”

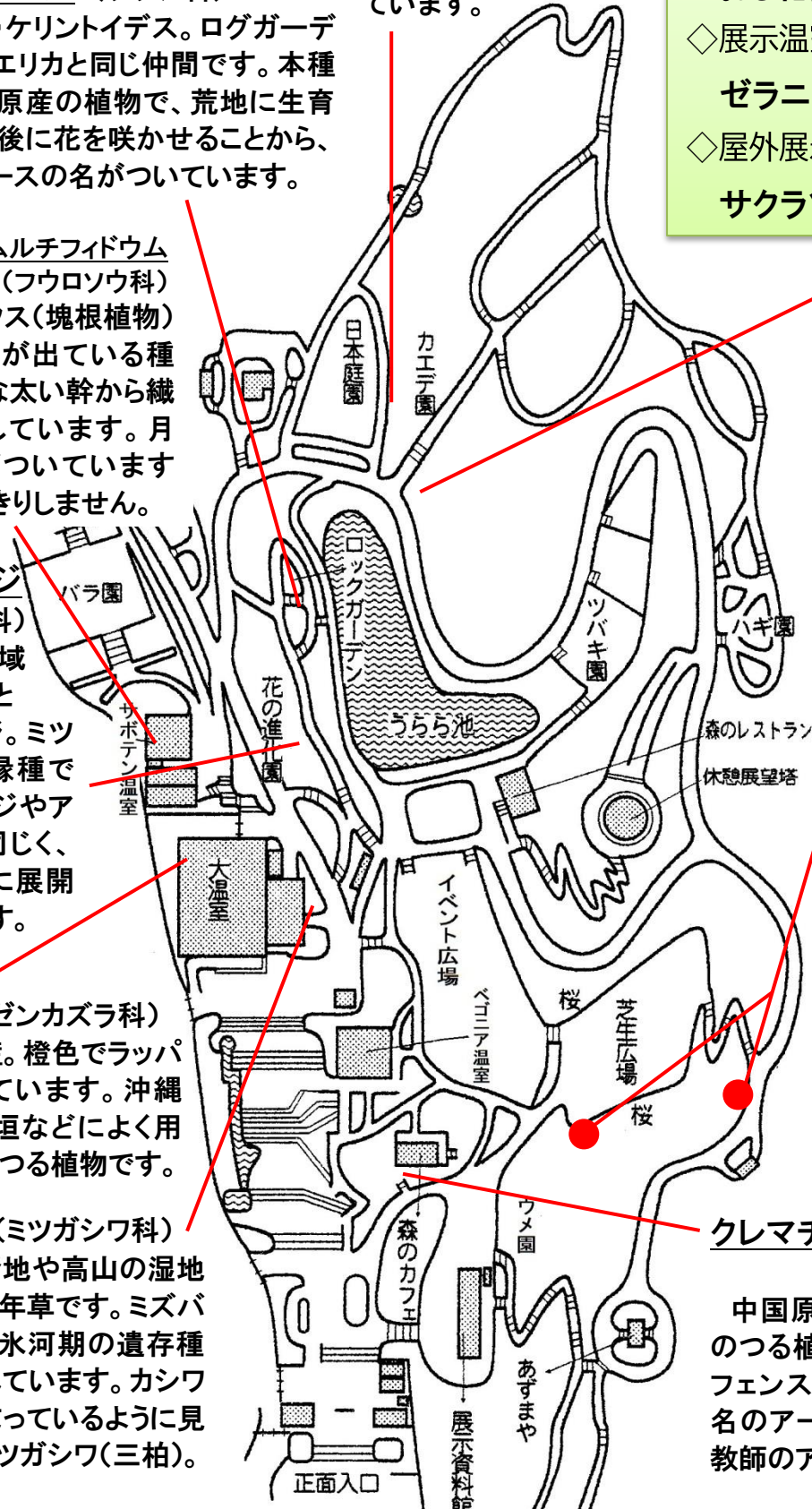
(バラ科)

ソメイヨシノが終わり、サトザクラが見ごろを迎えています。御衣黄と鬱金は花色に特徴があり、それぞれ淡緑色と黄色です。花卉の中に葉緑素(クロロフィル)を持つので、緑系の色になります。

クレマチス・アーマンディー

(キンポウゲ科)

中国原産の原種クレマチス。常緑のつる植物で、甘い芳香のある花がフェンス一面に咲いています。種小名のアーマンディーは人名(仏人宣教師のアルマン・ダビット)由来です。



♣毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します♣

♣毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します♣